

連載第8回

京大植物園観察会

■第45回 観察会のお知らせ

日時:12月7日(木)12:05~12:55

『ドングリから探る、植物の分散戦略』

ガイド:西田佐知子さん(名古屋大学博物館)

植物園前に集合してください。

第42回京大植物園観察会レポート 2006年9月21日(木)12:05~12:55 晴
 テーマ『森で語ろう partII』
 ガイド:坂本 三和(京都大学農学研究科 院生)



ヤブミョウガ▲

今回の観察会のテーマは、今年1月に続いて2回目となる、『森で語ろう』でした。園内を散策して初秋の植物園を楽しんだ後で、案内人や参加者が観察会や植物園について思うことなどを自由に話すというスタイルで行いました。

最初に、案内人の私から、この観察会について思うことを語りました。私は、京大植物園の観察会が始まった2003年以降、スタッフとしてお手伝いをしてきました。去る8月21日、北海道の江別市で開催された「日本環境教育学会」という学会で、京大植物園における観察会の実践を報告してきました。京大植物園で毎月行われているこの観察会は、今回で42回目を迎えています。大学の植物園で、職員や院生などの有志による観察会が3年以上、毎月継続していて、学内だけでなく学外からも多くの参加者がいるという例は全国的に見ても珍しいといえます。もともとは植物園の存在と

価値を広めるために始まった観察会ですが、その目的はもちろんのこと、学内と学外の交流の場や、参加者が身近な自然に触れる機会にもなっていると思います。

学会発表の準備の際にこれまでの観察会の記録に目を通すうちに、参加者の方々はどうなことを思って観察会に足を運んでいるのか、植物園のことをどんな風に感じているのか知りたくなりました。そこで『森で語ろう』の場を作ったという次第です。今回、参加者のみなさんから、観察会や植物園について多くの意見を聞くことができました。「観察会では緑の中を歩くことができるのが楽しい」「植物園以外でも観察会を開いてほしい」「植物園のユクノキの開花を見ることができて感動した」「植物園で植物のことを勉強したい」「近隣の小学校の授業などと提携して子どもたちにも植物園に触れてほしい」などなど、様々な意見がありました。会場となった園内中ほどの広場は、蚊がぶんぶん飛んでいましたが、かゆさをこらえて多くの方々がお話を聞かせてくださり、とてもうれしく思いました。誰も何も言ってくれなかったらどうしよう、と心配していたのですが、逆に時間が足りないくらいでした。

普段の観察会はガイドの説明を聴くというスタイルが多いので、今まで、参加者の反応がいまいちつかめないような気がしていました。しかし今回、みなさんそれぞれ、色々なことを考えながら参

加されていることが分かったのが、何よりの収穫でした。観察会は、植物園というフィールドに関心をもつ人たちが自然に集まってくる場でもあるのだと気付きました。また、終了後のアンケートにも多くの貴重なご回答をいただきました。どうもありがとうございました。この場でお礼を申し上げます。



ガイドの説明を聞く▲

昆虫リスト

ツクツクボウシ、ミンミンゼミ、オオカマキリ、センチコガネ、シロテンハナムグリ、コガタスズメバチ、ハンミョウ、ツマグロオオヨコバイ、ヒメウラナミジャノメ、クロアゲハ？

昆虫レポート: 吉本治一郎(京都大学大学院農学研究科昆虫生態学研究室)

京大植物園を考える会 <http://members.at.infoseek.co.jp/bgarden/>
京大植物園のブログができましたので覗いてみてください。
京大植物園TODAY (<http://blog.goo.ne.jp/bgfanclub/>)

[| ひとつまえにもどる |](#)

Copyright (C) SCOOP. NET Kyoto-Univ CO-OP. All Rights Reserved..